corega®

Wireless LAN PCCL-11

取扱説明書

1 お使いの前に

2 無線 LAN 基礎知識

3 無線 LAN を使えるようにする

4 困ったときには

付録

http://www.corega.co.jp/

PN J613-M7150-00 Rev.A 020607

安全のために

必ずお守りください

警告

下記の注意事項を守らないと、**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

取扱説明書に記載のない方法で本製品を分解、改造しないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

落雷による感電の恐れがあります。

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

注意

下記の注意事項を守らないと、**けが**をしたり、周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると、やけどの恐れがあります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、部品などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外しのときの注意

コンピューターのPCカードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ず本取扱説明書、およびご使用のコンピューターの取扱説明書を参照の上、正しく行ってください。

長期保管や持ち歩くときはケースに入れて

長期保管や、コンピューターから取り外した場合は、必ず添付のケースに入れてください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源プラグを抜いた状態で

電源プラグを挿し込んだ状態で清掃すると、誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　堅く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

シンナー類不可

はじめに

この度は「corega Wireless LAN PCCL-11」PC Card Standard(5V)対応無線LANアダプターをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本取扱説明書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。
必要な時にいつでもご覧いただくために、巻末の保証書とともに大切に保管してください。

本製品に関する最新情報(ファームウェアのバージョンアップ情報など)は、弊社のホームページでお知らせします。
無線LANに関する情報や活用例などもご紹介しておりますので、ぜひ、弊社のホームページをご覧ください。

corega のホームページ http://www.corega.co.jp/

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。
また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
  電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談してください。
3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の読み方

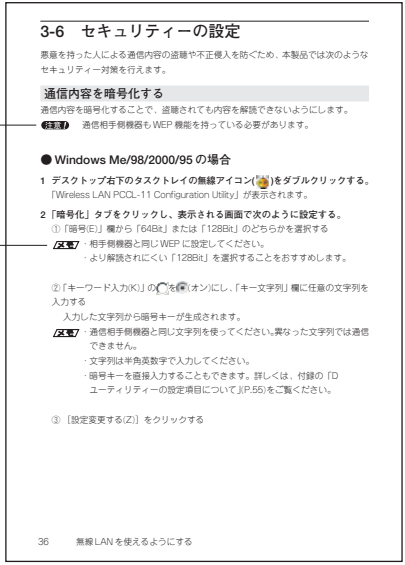
各ページの構成について説明します。

注意

操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。

メモ

補足事項や知っていただきたい内容です。



3-6　セキュリティーの設定

悪意を持った人による通信内容の盗聴や不正侵入を防ぐため、本製品では次のようなセキュリティー対策を行えます。

通信内容を暗号化する

通信内容を暗号化することで、盗聴されても内容を解読できないようにします。

注意　通信相手側機器もWEP機能を持っている必要があります。

● Windows Me/98/2000/95 の場合

1 デスクトップ右下のタスクトレイの無線アイコン( )をダブルクリックする。
「Wireless LAN PCCL-11 Configuration Utility」が表示されます。

2 「暗号化」タブをクリックし、表示される画面で次のように設定する。
①「暗号(E)」欄から「64Bit」または「128Bit」のどちらかを選択する
メモ ・相手側機器と同じWEPに設定してください。
・より解読されにくい「128Bit」を選択することをおすすめします。

②「キーワード入力(K)」の を (オン)にし、「キー文字列」欄に任意の文字列を入力する
入力した文字列から暗号キーが生成されます。
メモ ・通信相手側機器と同じ文字列を使ってください。異なった文字列では通信できません。
・文字列は半角英数字で入力してください。
・暗号キーを直接入力することもできます。詳しくは、付録の「Dユーティリティーの設定項目について」(P.55)をご覧ください。

③［設定変更する(Z)］をクリックする

36　無線LANを使えるようにする

目　次

はじめに 4
電波に関する注意 5
本書の読み方 6
目　次 7

1　お使いの前に 9
1-1 添付品の確認 9
1-2 対応コンピューター機種 10
1-3 対応オペレーティングシステム 10
1-4 各部の名称と機能 11

2　無線LAN基礎知識 13
2-1 無線LANで何ができる？ 13
ケーブルなしでインターネットにアクセス 13
離れた場所のコンピューターともデータのやりとりができる 13
街中でもインターネットにアクセス 13
2-2 通信相手の機器は何が使える？ 14
2-3 2つある通信モード、どちらを使う？ 14
アクセスポイントを使ってインターネットに接続するなら
「インフラストラクチャーモード（Infrastructure mode)」 14
コンピューター同士でファイルのやり取りするだけなら
「アドホックモード(AdHoc mode)」 15
2-4 通信速度や通信距離はどのくらい？ 16
2-5 セキュリティー対策はどうしたらいい？ 16
通信内容を暗号化するWEP(Wired Equivalent Privacy) 16
通信相手を識別するためのESSID(Extended Service Set IDentifier) . 17
使わないときは、無線LAN機能をオフにする 17
機種固有のアドレスを登録して、接続機種を特定 17
市販のファイアウォールソフトやウイルス検出ソフトも使うと安心 .. 17
2-6 無線LAN使いこなしのコツ 18
より安定した通信のために 18
ホットスポットサービスを利用するときには 18

3 無線LANを使えるようにする 19
3-1 インストールの準備 19
3-2 ソフトウェアのインストール 20

3-3 無線LANカードの取り付け 23
インストールの確認 27
無線LANカードを取り外すときのご注意 29
3-4 無線LANカードの設定(Windows Me/98/2000/95) 30
アクセスポイントを使って通信する場合（インフラストラクチャーモード） 30
無線LAN機能のあるコンピューター同士で通信する場合（アドホックモード） 32
3-5 無線LANカードの設定(Windows XP) 34
アクセスポイントを使って通信する場合（インフラストラクチャーモード） 34
無線LAN機能のあるコンピューター同士で通信する場合（アドホックモード） 35
3-6 セキュリティーの設定 36
通信内容を暗号化する 36
3-7 ソフトウェアのアンインストール 41

4 困ったときには 42
4-1 トラブル解決のステップ 42
ステップ1 まず、この取扱説明書と通信相手機器に添付の取扱説明書を再確認！ 42
ステップ2 コレガのホームページの情報を活用！ 43
ステップ3 これでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせ 43
「調査・修理依頼書」の記入方法 44
corega Net-Newsを購読しませんか？ 47
4-2 トラブル解決 Q&A 48
本製品用ソフトウェアのインストールができない 48
デバイスマネージャーで「×」が付く 48
通信ができない 49
通信速度が遅い 50
「マイネットワーク」に他のコンピューターが表示されない 50
PCMCIA コントローラが正しく表示されない 51
最新のドライバーやファームウェアを入手したい 52

付録 53
A 製品仕様 53
B 工場出荷時の設定 54
C MAC アドレスについて 54
D ユーティリティーの設定項目について 55
E 用語集 62
F 保証と修理について 64
保証について 64
修理について 64
G おことわり 65

1 お使いの前に

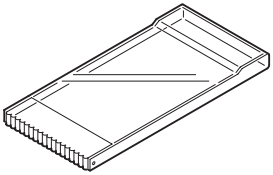
1-1 添付品の確認

まず添付品がそろっているかどうか,このチェックリストを見ながら確認してください。万一添付品が不足していたり、破損していたときは、お手数ですが、巻末の「製品保証書」に記載の弊社サポートセンターまでご連絡ください。

メモ 下記以外に添付紙が同梱されている場合があります。

□ corega Wireless LAN PCCL-11
本体：1 個

□取扱説明書：1冊（本書）
（製品保証書付き）



□携帯用プラスチックケース：1 個

□ユーティリティーディスク：1 枚

□シリアル番号ラベル：3 枚

1-2 対応コンピューター機種

corega Wireless LAN PCCL-11（以下、「本製品」と表記します）は、PC Card Standard (PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2 Type II)に対応のPCカードスロットを持つ次のコンピューターに対応しています。

・AT 互換機およびNEC PC98-NX シリーズ

1-3 対応オペレーティングシステム

本製品および添付のセットアップユーティリティーは､次のオペレーティングシステム(OS)に対応しています。

・Windows Me

・Windows 98（Second Edition にも対応）

・Windows 2000

・Windows XP Professional (32bit) / Home Edition

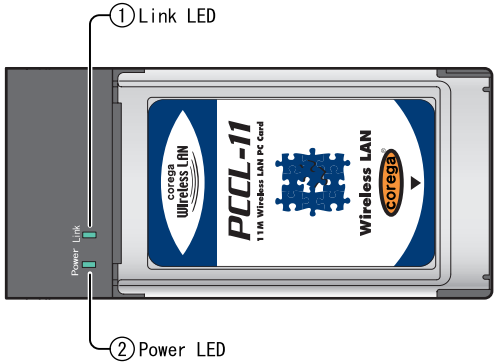
・Windows 95 OSR2 以降

1-4 各部の名称と機能

表面

①Link LED　　点灯：Link が確立している状態
　　点滅：Link が確立していない状態
　　消灯：電源が供給されていない状態

② Power LED　　点灯：電源が供給されている状態
　　消灯：電源が供給されていない状態



裏面

③ 警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための、重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、必ずお読みください。

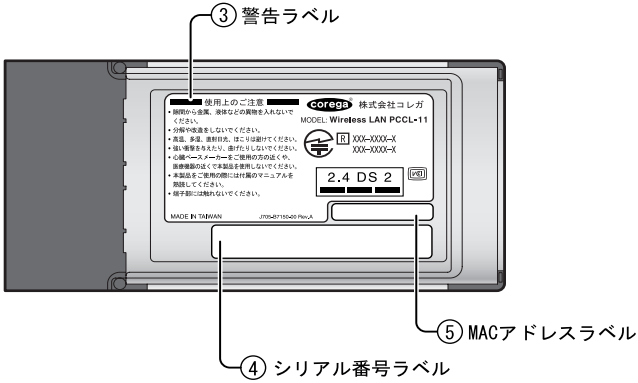
④ シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号(製造番号)とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、問い合わせていただく際に、必要な情報です。

同一シリアル番号のラベルが3枚同梱されています。同梱されているシリアル番号ラベルのうち、1枚を巻末の「製品保証書」に貼付してください(残る2枚は、予備です)。パッケージ(外箱)にも貼付されています。

⑤ MACアドレスラベル

本製品のMACアドレス（P.54）が記載されています。



メモ　上の図で 2.4 DS 2 は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

2 無線 LAN 基礎知識

ここでは、「無線 LAN でなにができる?」「無線 LAN の使いこなしのコツは?」という方のために、無線 LAN の基本的な知識についてやさしく説明しています。無線 LAN に慣れていない方は、まずここを読んでください。

2-1 無線 LAN で何ができる?

ケーブルなしでインターネットにアクセス

本製品を取り付けたコンピューターと、無線 LAN 機能があるアクセスポイント(P.63)を使えば、電波が届く範囲なら場所を気にせずインターネットできます。

メモ インターネットに接続するには、アクセスポイントの他に ADSL モデム、ケーブルモデム、ISDN対応機器、ルーターなどが必要になります(これらの機能を内蔵しているアクセスポイントも一般的になっています)。

離れた場所のコンピューターともデータのやりとりができる

本製品を取り付けたコンピューターと無線LAN機能のあるコンピューターでファイルをやりとりできます。

街中でもインターネットにアクセス

最近増えてきたホットスポット(公共スペースや飲食店などで、一般に公開されたアクセスポイントのこと)にコンピューターを持ち込めば、無線でインターネットを楽しめます。本製品の動作が確認されているホットスポットについて、コレガのホームページで紹介しています。

メモ ホットスポットサービスを使う前に、フォルダーの共有を解除しておくなど、あらかじめセキュリティー対策をしておくことをお勧めします。詳しくは、「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)をご覧ください。

2-2 通信相手の機器は何が使える?

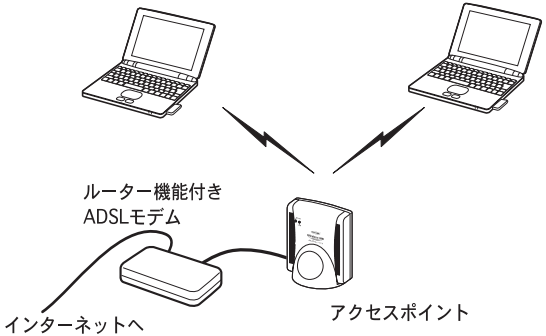
本製品は無線LANで一般的な「IEEE802.11b」規格に対応しています。相手側の機器が「IEEE802.11b」規格または「IEEE802.11」規格に対応していれば、ほとんどの場合通信ができます。

メモ
- 接続の可否については、無線LAN機器のメーカーまたは販売店にお問い合わせください。また、コレガのホームページで、本製品と通信可能な機器を紹介しています。他の無線LAN機器を購入する前に、こちらもご覧ください。
- 「IEEE802.11a」規格の無線LAN機器とは接続できません。

2-3 2つある通信モード、どちらを使う?

無線LANには、「インフラストラクチャーモード」と「アドホックモード」の2種類の通信モードがあります。モードの違いで、ネットワークの設定も大きく変わります。どちらのモードを使うか、ここで確認しておいてください。

アクセスポイントを使ってインターネットに接続するなら「インフラストラクチャーモード（Infrastructure mode）」



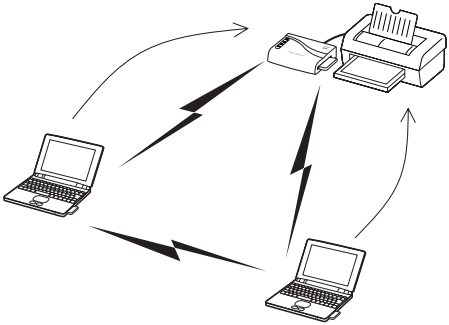
アクセスポイントとコンピューターが通信をする方式です。アクセスポイントがADSLやCATV、ISDNに接続されていれば、インターネットにもアクセスできるようになります。また、既にケーブルを使ってネットワークが構築されている環境に、無線LANを追加するときなども、インフラストラクチャーモードにします。

【こんな用途にオススメ】

・インターネット接続を家族みんなで共有したい

・企業内LANに無線LANを追加したい

コンピューター同士でファイルのやり取りするだけなら「アドホックモード（AdHoc mode）」



無線LAN機能があるコンピューター同士で通信する方式です。アクセスポイントは不要です。

【こんな用途にオススメ】

・離れた場所にあるコンピューター同士でファイル交換ができればいい

2-4 通信速度や通信距離はどのくらい?

本製品の規格上の最大速度は、11Mbps です。ただし、実際には、その 1/2 ～ 1/3 以下のデータ転送速度で通信が行われます。最大通信距離は、屋外で 150m、屋内で 50m です。

メモ
- 周辺の環境（障害物など）、通信相手機器の性能、相手側機器との距離などにより、通信速度、距離は大きく変動します。
- 通信速度や距離を改善するためのヒントを、この後の「2-6 無線LAN使いこなしのコツ」(P.18)で紹介しています。
- 通信速度の調べ方は、「D ユーティリティーの設定項目について」(P.55)で紹介しています。

2-5 セキュリティー対策はどうしたらいい?

無線 LAN では電波を使うため、悪意を持った人が電波が届く範囲にいたりすると、通信内容を盗聴されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことがないように、本製品では、次のようなセキュリティー対策を行えます。

通信内容を暗号化する WEP(Wired Equivalent Privacy)

通信内容を暗号化することで、盗聴されても内容を解読できないようにします。ただし、通信相手側機器も WEP 機能を持っていないと使えません。
本製品は、「64Bit」と「128Bit」の２種類の WEP に対応しています。「128BitWEP」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。

- 「64BitWEP」　半角英数字で 5 文字(16 進数で 10 桁)までの暗号キーを利用可能
- 「128BitWEP」　半角英数字で 13 文字(16 進数で 26 桁)までの暗号キーを利用可能

メモ
- WEP の設定は、「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)をご覧ください。
- アクセスポイントを使って通信を行うときは、アクセスポイント側にも WEP 暗号化の設定が必要になります。設定方法は、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。通信する無線 LAN 機器はすべて同じ WEP を使用する必要があります。

通信相手を識別するための ESSID(Extended Service Set IDentifier)

無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSID を持つ無線LAN 機器同士でしか通信できないため、独自のESSID を設定することにより、外部から不正侵入される危険がやや減ります。

メモ ESSIDの設定は、「D ユーティリティー の設定項目について」(P.55)をご覧ください。

使わないときは、無線 LAN 機能をオフにする

基本的なことですが、使わないときに無線LAN機能を無効にしておけば、侵入される可能性をずっと減らすことができます。たとえば、Windows XPでは、デスクトップ右下の通知領域にあるネットワークアイコン ( ) をクリックして表示される「ワイヤレスネットワーク接続の状態」で「無効にする」をクリックすると無線LAN機能をオフにできます。

機種固有のアドレスを登録して、接続機種を特定

ネットワークカードに固有のアドレスをMACアドレスといいます。無線LAN機器には、「指定したMACアドレスに限定して通信する機能 (MACアドレスフィルタリング)」を持っているものがあります。このような機能を使って接続相手を制限すれば、不正アクセスの可能性を減らせます。

メモ 本製品のMACアドレスは、「C MACアドレスについて」(P.54)をご覧ください。

市販のファイアウォールソフトやウイルス検出ソフトも使うと安心

外部からの侵入やコンピューターウイルス対策にこれらのソフトの効果が期待できます。

2-6 無線 LAN 使いこなしのコツ

より安定した通信のために

- **相手側の無線 LAN 機器との距離を近づける**
- **相手側の無線 LAN 機器との間に障害物を置かない**
- **金属製のラックなどに無線 LAN 機器を設置しない**
  通信速度が遅い、通信が途切れるような場合は、まず各機器の距離を近づけて試してください。また、相手側機器との間に、カベや床、金属製の家具などがあると、通信に影響することもあります。
- **電子レンジや医療機器から離して使用する**
  意外に思うかもしれませんが、電子レンジは無線LANの大敵です。電子レンジが調理に使う電磁波と、無線LANが使用する周波数が近いため影響がでてしまいます。
- **コンピューターの向きを変えてみる**
  コンピューターの向きを変えると本製品内蔵アンテナの向きも変わって、電波が入りやすくなることもあります。
- **設定を変更してみる**
  アドホック（Ad-Hoc）モードのときは、チャンネルを変更すると通信が安定することがあります。このほかのネットワークの設定変更も試してください。

ホットスポットサービスを利用するときには

ホットスポットのサービス提供形態はさまざまで、無料で公開されているもの、会員制などで手続きが必要なものなどがあります。

「DHCP を使う」「ESSID は ANY または空欄」が一般的な設定です。詳しくはホットスポットの管理者などにお問い合わせください。

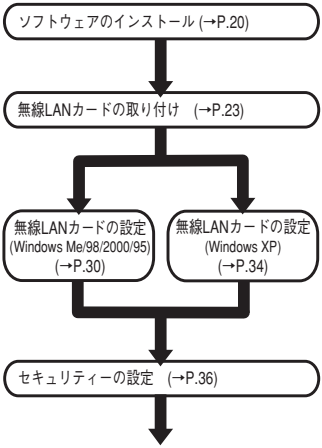
メモ 不特定多数に向けてサービスされている「ホットスポット」は、便利な反面、セキュリティー上の問題も考えられます。次のような方法で対策をしてください。

・ファイルやフォルダーの共有をしないようにする
・ファイルやフォルダーにパスワードを設定する
・ウイルス検出ソフトやファイアウォールソフトを組み合わせて使う

3 無線 LAN を使えるようにする

3-1 インストールの準備

次の手順で無線 LAN が使えるようになります。



無線LANが使えるようになったら.....

- 無線LANカードのソフトウェアを削除したい
  - ソフトウェアのアンインストール (→P.41)
- 無線通信の設定を確認／変更したい
  - ユーティリティーの設定項目について (→P.55)

無線LANカードを取り付けるコンピューターは、次の条件を満たしている必要があります。

- Windows Me/98/2000/XP/95 がインストールされている
- CD-ROM ドライブが装備されている
- PC カードスロット(TypeII)が装備されている

また、本書ではお使いのコンピューターのドライブ構成を次のように仮定して説明しています。ドライブ名が異なる場合は、実際の環境に合わせて読み替えてください。

起動ドライブ（ハードディスク）	(C:)
CD-ROM ドライブ	(D:)

メモ デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリック（Windows XP の場合は、「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリック）し、ご使用のCD-ROMドライブのドライブ名を確認してください。

3-2 ソフトウェアのインストール

本製品用ソフトウェア(ドライバー、ユーティリティー)を、Windowsにインストールする方法を説明します。

基本的な操作は、Windows Me/98/2000/XP/95 で共通です。

差異のある操作等に関しては、該当の記載内容を参照してください。

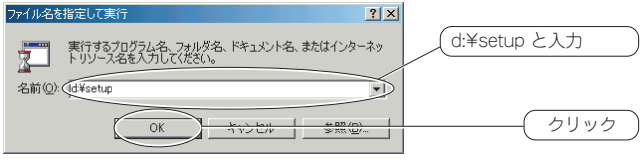
注意!
- Windows 2000 の場合は、「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザー名でログオンする必要があります。
- Windows XP の場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンする必要があります。

1 ユーティリティーディスクをコンピューターのCD-ROMドライブにセットする。

2「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行(R)...」の順にクリックする。

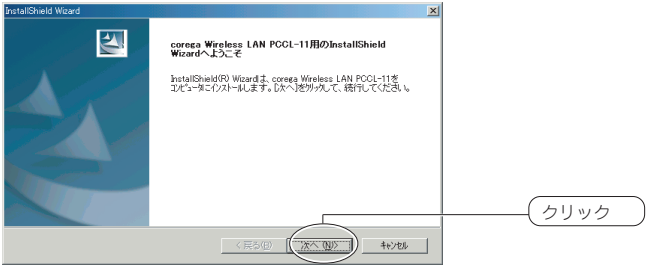
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

3 名前欄に「d:¥setup」と入力し、[OK] をクリックする。



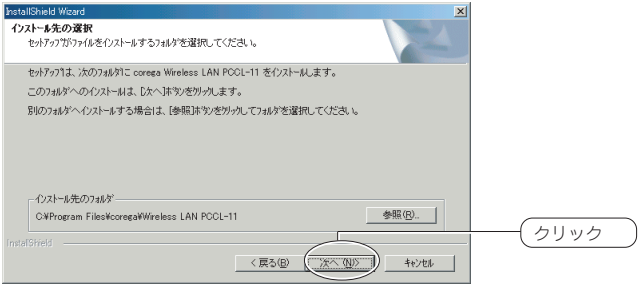
「InstallShield ウィザード」が起動し、「InstallShield Wizard」ウィンドウが表示されます。

4 [次へ(N)>]をクリックする。



「インストール先の選択」が表示されます。

5 [次へ(N)>] をクリックする。

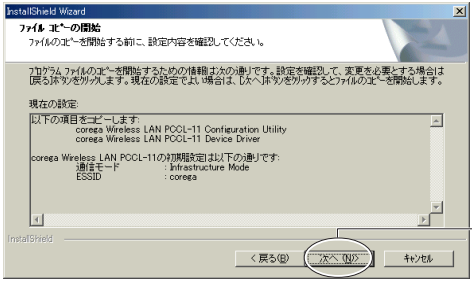


メモ インストール先のフォルダーを変更したい場合は、[参照(R)...] をクリックし、インストールするフォルダーを選択してください。通常は、変更する必要はありません。

「ファイルコピーの開始」が表示されます。

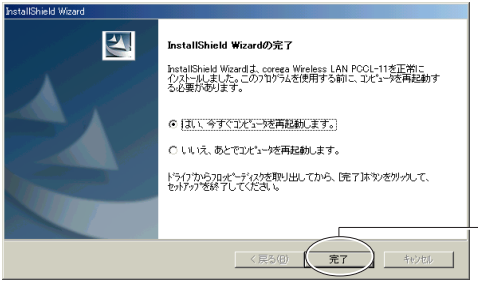
メモ ここでは本製品用のデバイスドライバーと設定用ユーティリティーをインストールする旨のメッセージが表示されます。

6 現在の設定内容を確認したら、[次へ(N)>] をクリックする。



インストールが行われ、しばらくするとインストール完了のメッセージが表示されます。

7 ユーティリティーディスクをCD-ROMドライブから取り出し、[完了]をクリックする。



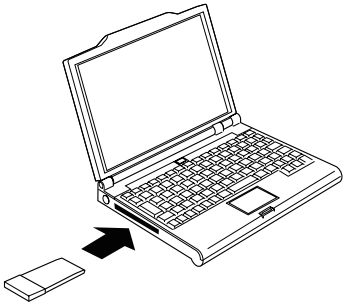
コンピューターが再起動します。これでソフトウェアのインストールは完了です。

3-3 無線 LAN カードの取り付け

注意！
- 無線LANカードは、コンピューターの電源が入っている状態でも取り付けができます。
- Windows 2000 の場合は、「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンする必要があります。
- Windows XP の場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンする必要があります。

1 本製品を、表裏や差し込む向きに注意して、PCカードスロットにまっすぐ差し込み、カチッと手応えがあるまで押し込む。

注意！
- PC カードスロットの位置は、お使いのコンピューターによって異なります。
- カードの向きを間違って取り付けると、本製品やコンピューターの故障の原因になります。カードの向きや取り付け方について詳しくは、コンピューターに添付の取扱説明書をご覧ください。



- **Windows Me/98/95 をお使いの場合　→ P.24 へ**
- **Windows 2000 をお使いの場合　→ P.25 へ**
- **Windows XP をお使いの場合　→ P.26 へ**

● **Windows Me/98/95 の場合**

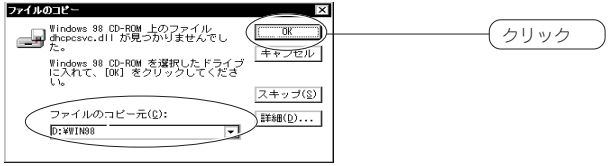
プラグアンドプレイ機能によって本製品が自動的に検出されます。

メモ Windows 98をお使いの場合､下のようなダイアログボックスが表示されたときは、次の手順で操作してください。

1 Windows 98のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし､[OK]をクリックする。

メモ デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、ご使用のCD-ROMドライブのドライブ名を確認してください。ここではCD-ROMドライブを「D:」と仮定します。

2「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されたら、「ファイルのコピー元」に「D:¥WIN98」と入力して､[OK]をクリックする。



注意! ご使用のコンピューターがプリインストール版である場合､「ファイルのコピー元」には､「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力してください。ここでは、ハードディスクドライブを「C:」と仮定します。

ドライバーがインストールされる旨のメッセージが表示され､ドライバーがインストールされます。

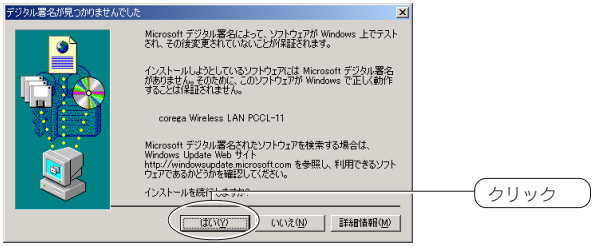
- 再起動の画面が出た場合 →「再起動」をクリックして、コンピューターを再起動させる。
- 再起動の画面が出ない場合 →「スタート」ボタンから、コンピューターを再起動させる。

ドライバーのインストールが完了すると、デスクトップ右下のタスクトレイに無線アイコンが表示されます。

「インストールの確認」(P.27)で無線LANカードが正しくインストールされているか確認した後、「3-4 無線LAN カードの設定(Windows Me/98/2000/95)」(P.30)に進んでください。

● **Windows 2000 の場合**

デジタル署名が見つからなかった旨のメッセージが表示されたら、[はい(Y)] をクリックします。



ドライバーがインストールされる旨のメッセージが表示され、ドライバーがインストールされます。

ドライバーのインストールが完了すると、デスクトップ右下のタスクトレイに無線アイコンが表示されます。

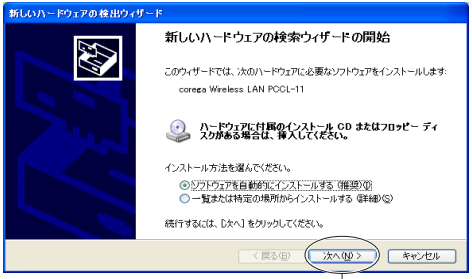
「インストールの確認」(P.27)で無線LANカードが正しくインストールされているか確認した後、「3-4 無線LAN カードの設定(Windows Me/98/2000/95)」(P.30)に進んでください。

● **Windows XP の場合**

プラグアンドプレイ機能によって本製品が自動的に検出され、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

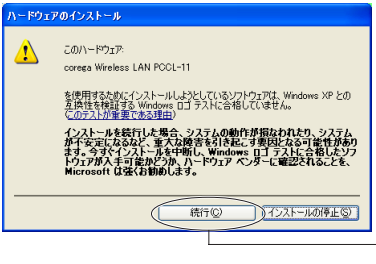
メモ　ユーティリティーディスクをセットする必要はありません。

1 [次へ(N)>] をクリックする。



2「Windowsロゴテストに合格していない」旨のメッセージが表示されたら、[続行(C)] をクリックする。

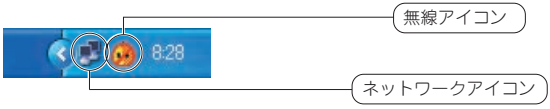
メモ　動作については弊社において確認済みです。



インストールが行われます。しばらくすると「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」が表示されます。

3 [完了] をクリックする。

「新しいハードウェアの検出ウィザード」が終了し、デスクトップ右下の通知領域に無線アイコンとネットワークアイコンが表示されます。



メモ この時点でいくつか通知領域付近に吹き出しのメッセージが表示されますが、無視してかまいません。

（メッセージの例）

・新しいネットワークデバイスがインストールされました

・新しいハードウェアが見つかりました

「インストールの確認」(P.27)で無線LANカードが正しくインストールされているか確認した後、「3-5 無線LANカードの設定(Windows XP)」(P.34)に進んでください。

インストールの確認

本製品のインストールが正常に行われていることを確認します。

●「デバイスマネージャ」で確認する

1「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」（Windows XPの場合は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」）の順にクリックする。

2「システム」アイコンをダブルクリックする（Windows XPの場合は、「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」の順にクリックする）。

3「デバイスマネージャ」タブをクリックする（Windows 2000/XPの場合は、「ハードウェア」タブをクリックして表示される画面で「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする）。

インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega Wireless LAN PCCL-11」が表示されます。

本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いている場合、またはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。
詳しくは、「4-2 トラブル解決Q&A」（P.48）をご覧ください。

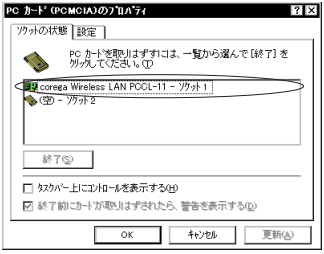
●「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」で確認する

メモ　Windows 2000／Windows XP は、この方法では確認できません。

1「コントロールパネル」を表示し、「PC カード（PCMCIA）」アイコンをダブルクリックする。

2「ソケットの状態」タブをクリックする。

該当するソケットに「corega Wireless LAN PCCL-11」が表示されていることを確認します。



無線 LAN カードを取り外すときのご注意

PC カードスロットから無線 LAN カードを取り外すときは、次の手順で取り外さないと、コンピューターが正常に動作しなくなることがあります。

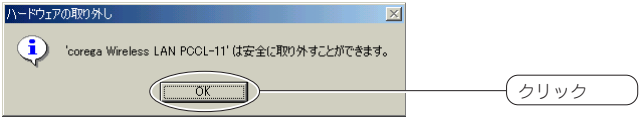
1 デスクトップ右下のタスクトレイ（通知領域）にあるをクリックする。

「corega Wireless LAN PCCL-11 の停止」というポップアップメニューが表示されます。

2 [corega Wireless LAN PCCL-11 の停止]をクリックする。

PC カードを取り外せる旨のメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックする。



4 コンピューターの PC カードスロットから本製品を取り外す。

メモ Windows XP の場合は、デスクトップ右下のタスクトレイ（通知領域）にあるは表示されません。コンピューターの電源を切った後、無線 LAN カードを取り外してください。

3-4 無線LANカードの設定(Windows Me/98/2000/95)

無線LANカードで通信するための設定を行います。設定が終わったら、通信できるかどうか確認します。

アクセスポイントを使って通信する場合 (インフラストラクチャーモード)

アクセスポイントを使って通信する場合は、次のように設定します。

メモ 設定を行うときは、アクセスポイントの電波が届く場所に無線LANカードを取り付けたコンピューターが置かれていることを確認してください。アクセスポイントの電波が届かない場所で設定を行うと、アクセスポイントが正しく認識されないことがあります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン( )をダブルクリックする。

無線アイコン

「Wireless LAN PCCL-11 Configuration Utility」が表示されます。

2 [設定] タブをクリックして、表示される画面で次のように設定する。

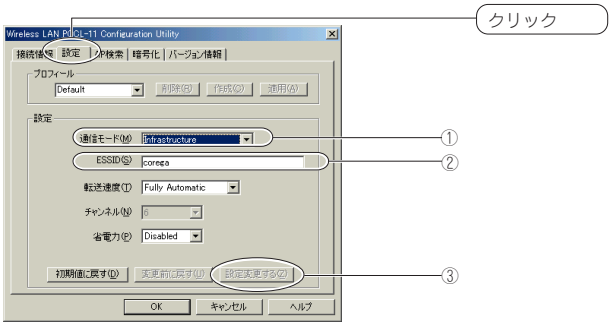
① 「通信モード」欄が「Infrastructure」になっていることを確認する

② 「ESSID」欄にアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する

メモ ・アクセスポイント側に設定されているESSIDの調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。

・工場出荷時には、ESSIDは「corega」に設定されていますが、変更することをおすすめします。

③ [設定変更する(Z)] をクリックする



3［AP検索］タブをクリックして、表示される画面で次のように設定する。

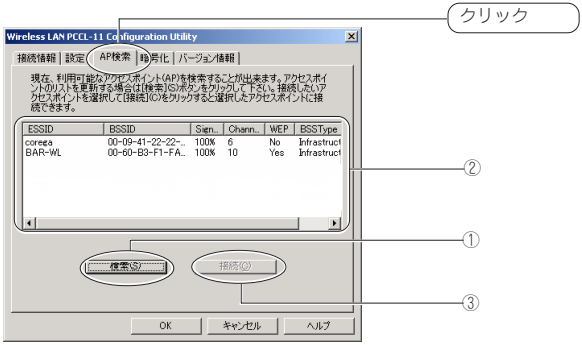
① ［検索(S)］をクリックする

接続できるアクセスポイントが②欄に表示されます。

メモ ［検索(S)］をクリックしても接続したいアクセスポイントが表示されないときは、アクセスポイント側でESSIDを検出できないように設定されている可能性があります。アクセスポイント側の設定を確認してください。

② 接続したいアクセスポイントをクリックして反転表示させる

③ ［接続(C)］をクリックする



メモ アクセスポイントの設定によっては、表示されない場合があります。

4 [OK] をクリックする。

これでアクセスポイントと通信できるようになりました。

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、インターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。うまくいかない場合は、「4-2 トラブル解決Q&A」(P.48)および「D ユーティリティーの設定項目について」(P.55)をご覧ください。

次に「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)に進んでください。

無線 LAN 機能のあるコンピューター同士で通信する場合（アドホックモード）

無線LAN機能のあるコンピューター同士でのみファイルをやりとりする場合は、次のように設定します。

注意! ここでは、「802.11 Ad-Hocモード」の設定方法を説明します。「Ad-Hocモード」の設定方法については、「D ユーティリティーの設定項目について」（P.55）をご覧ください。

メモ 設定を行うときは、通信相手側機器の電波が届く場所に無線LANカードを取り付けたコンピューターが置かれていることを確認してください。通信相手側機器の電波が届かない場所で設定を行うと、通信相手側機器が正しく認識されないことがあります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン( )をダブルクリックする。

「Wireless LAN PCCL-11 Configuration Utility」が表示されます。

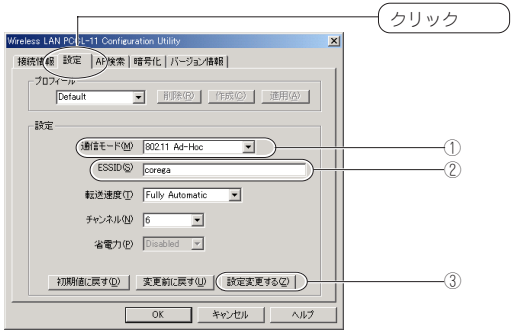
2 [設定] タブをクリックして、表示される画面で次のように設定する。

① 「通信モード(M)」欄から「802.11 Ad-Hoc」を選択する

② 「ESSID(S)」欄に相手の無線LAN機器と同じSSIDを入力する

③ [設定変更する(Z)] をクリックする

メモ 通信相手側機器に設定されているチャンネルの調べ方については、通信相手側機器に取り付けられている無線LANアダプターに添付の取扱説明書をご覧ください。



3 [OK] をクリックする。

これで無線 LAN 機能のあるコンピューター同士で通信できるようになりました。

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、インターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。うまくいかない場合は、「4-2 トラブル解決Q&A」(P.48)および「D ユーティリティーの設定項目について」(P.55)をご覧ください。

次に「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)に進んでください。

3-5 無線 LAN カードの設定(Windows XP)

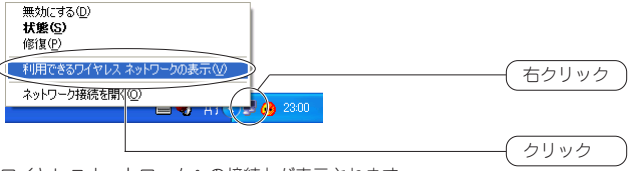
無線LANカードで通信するための設定を行います。設定が終わったら、通信できるかどうかを確認します。

アクセスポイントを使って通信する場合 (インフラストラクチャーモード)

アクセスポイントを使って通信する場合は、次のように設定します。

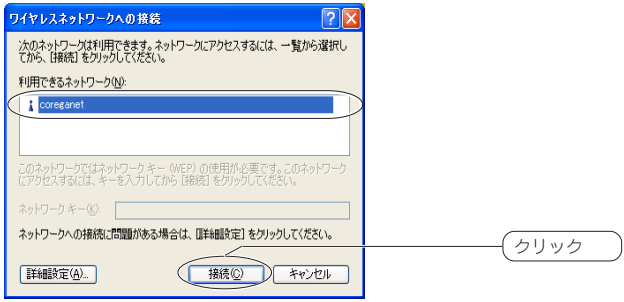
メモ 設定するときは、アクセスポイントの電波が届く場所に無線LANカードを取り付けたコンピューターが置かれていることを確認してください。アクセスポイントの電波が届かない場所で設定を行うと、アクセスポイントが正しく認識されないことがあります。

1 デスクトップ右下の通知領域にあるネットワークアイコン( )を右クリックし、表示されるメニューから「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックする。



「ワイヤレスネットワークへの接続」が表示されます。

2 「利用できるネットワーク」欄から接続したいアクセスポイントをクリックして反転表示させ、[接続(C)]をクリックする。



注意! アクセスポイント側でWEP暗号化を設定している場合は、「ネットワークキー」欄にアクセスポイントと同じ文字列（パスワード）を入力してから、［接続(C)］をクリックする必要があります。
パスワードについては、アクセスポイントの管理者にお問い合わせください。

これでアクセスポイントと通信できるようになりました。
相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、インターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。
うまくいかない場合は、「4-2 トラブル解決 Q&A」(P.48)をご覧ください。

次に 「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)に進んでください。

無線 LAN 機能のあるコンピューター同士で通信する場合（アドホックモード）

「アクセスポイントを使って通信する場合(インフラストラクチャーモード)」(P.34) と同じ手順で相手無線 LAN 機器と通信するための設定が行なえます。

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、インターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。
うまくいかない場合は、「4-2 トラブル解決 Q&A」(P.48)をご覧ください。

次に 「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)に進んでください。

3-6　セキュリティーの設定

悪意を持った人による通信内容の盗聴や不正侵入を防ぐため、本製品では次のようなセキュリティー対策を行えます。

通信内容を暗号化する

通信内容を暗号化することで、盗聴されても内容を解読できないようにします。

注意!　通信相手側機器もWEP機能を持っている必要があります。

● Windows Me/98/2000/95の場合

1 デスクトップ右下のタスクトレイの無線アイコン( )をダブルクリックする。

「Wireless LAN PCCL-11 Configuration Utility」が表示されます。

2「暗号化」タブをクリックし、表示される画面で次のように設定する。

①「暗号(E)」欄から「64Bit」または「128Bit」のどちらかを選択する

メモ・相手側機器と同じWEPに設定してください。
・より解読されにくい「128Bit」を選択することをおすすめします。

②「キーワード入力(K)」の○を◉(オン)にし、「キー文字列」欄に任意の文字列を入力する

入力した文字列から暗号キーが生成されます。

メモ・通信相手側機器と同じ文字列を使ってください。異なった文字列では通信できません。
・文字列は半角英数字で入力してください。
・暗号キーを直接入力することもできます。詳しくは、付録の「D ユーティリティーの設定項目について」(P.55)をご覧ください。

③［設定変更する(Z)］をクリックする

3 [OK]をクリックする。

これで通信内容を暗号化できるようになりました。

● Windows XP の場合

1 デスクトップ右下の通知領域にあるネットワークアイコン（ ）をクリックする。

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」が表示されます。

2「プロパティ（P）」をクリックする。

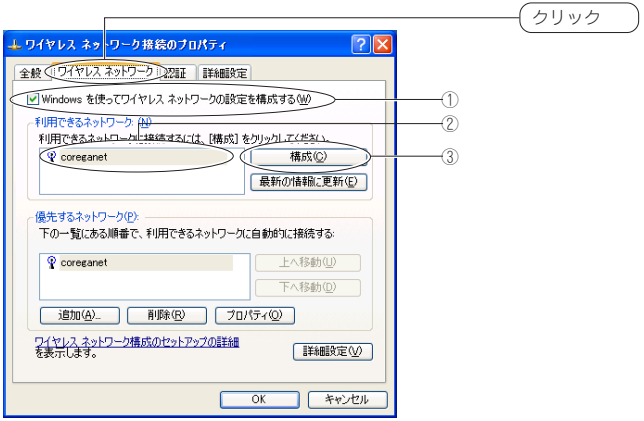
「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」が表示されます。

3「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックして、表示される画面で次のように設定する。

① 「Windows を使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する(W)」の左が☑(オン)になっていることを確認する

② 接続したい相手の無線 LAN 機器をクリックして選択する

③ [構成(C)] をクリックする



「ワイヤレスネットワークのプロパティ」が表示されます。

4「ワイヤレスネットワークのプロパティ」ウィンドウで、次の順番で設定する。

①「ネットワーク名(SSID)(N)」欄に相手の無線LAN機器と同じSSIDを入力する。

メモ 相手の無線LAN機器のSSIDの調べ方については、無線LAN機器に添付の取扱説明書をご覧ください。

②「データの暗号化(WEP 有効)(D)」の☐を☑(オン)にする

③「キーは自動的に提供される(H)」の左の☑を☐(オフ)にする

④「キーの形式(F)」欄から「ASCII 文字」または「16 進数」を選択する

メモ 「16進数」を選択すると、「ネットワークキー(K)」欄に暗号キーを直接入力することもできます。

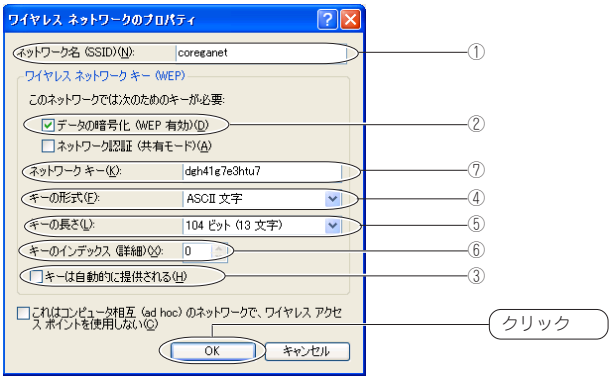
⑤「キーの長さ(L)」欄から「40ビット(5文字)」または「104ビット(13文字)」を選択する

⑥「キーのインデックス(詳細)(X)」欄から「0」～「3」の4種類のキーのいずれかを選択する

メモ ・工場出荷時は、「0」に設定されています。
・通常は、設定を変更する必要はありません。

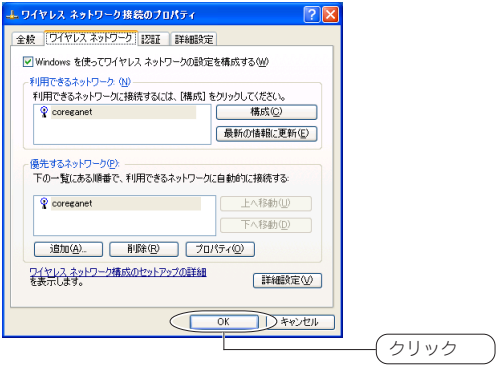
⑦「ネットワークキー(K)」欄に通信相手側機器と同じ文字列を入力する
入力した文字列から暗号キーが生成されます。

メモ ・通信相手側機器と同じ文字列を使って下さい。異なった文字列では通信できません。
・文字列は半角英数字で入力してください。



5 [OK]をクリックする。

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」が表示されます。



6 [OK]をクリックする。

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」が表示されます。

7 [閉じる(C)]をクリックする。

これで通信内容を暗号化できるようになりました。

3-7 ソフトウェアのアンインストール

本製品用ソフトウェア(ドライバー、ユーティリティー)をコンピューターから削除する方法を説明します。

1 「無線 LAN カードを取り外すときのご注意」(P.29) の手順を参照して、PC カードスロットから本製品を取り外す。

注意! ・Windows XP の場合は、Windows を終了してから本製品を取り出してください。
・本製品を装着した状態でアンインストールを実行すると、正常にアンインストールが行えない場合があります。

2 「スタート」→「プログラム(P)」→「corega Wireless LAN PCCL-11」→「Uninstall」の順にクリックする (Windows XP の場合は、「スタート」→「すべてのプログラム(P)」→「corega Wireless LAN PCCL-11」→「Uninstall」の順にクリックする)。

「ファイル削除の確認」が表示されます。

3 [OK] をクリックする。

アンインストールが始まります。

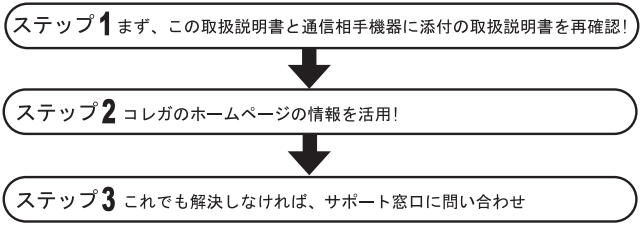
4 次の画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

これでソフトウェアのアンインストールは終了です。

4 困ったときには

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったときは、この章で解決方法を探してください。

4-1 トラブル解決のステップ



ステップ1 まず、この取扱説明書と通信相手機器に添付の取扱説明書を再確認！

まずは、P.48 からの「トラブル解決 Q&A」でトラブル事例を確認してください。

次に、通信相手機器の取扱説明書を確認してください。ネットワークのトラブル原因はとても多く、本製品の設定は問題なくても、接続相手の設定がおかしいために、正しく動作しないこともあります。

このほか…

- 企業などでお使いの場合は … ネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。ネットワーク管理部門などに確認してください。
- インターネットにつながらないときは … インターネットプロバイダーから送られてきた各種設定項目を確認して、設定してください。

ステップ2 コレガのホームページの情報を活用!

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識をわかりやすく解説しているページを公開中です。困っていることが、ここで解決できるかもしれません。

(2002年5月現在)

- お問い合わせ情報 …[サポート情報]-[製品FAQ]
- ネットワークの一般知識 …[製品情報]-[導入ナビゲーション]

注意! ホームページにすべてのトラブルに対応した解決情報が掲載されているわけではありません。

ステップ3 これでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせ

次の2種類のサポートメニューを用意しています。

① 巻末の「調査・修理依頼書」に記入して窓口にFAX

FAXを利用できて、お急ぎの場合はこの方法がおすすめです。調査・修理依頼書をコピーしてから次の窓口にFAXしてください。折り返し回答をさしあげます。

FAX番号:045-476-6294(通信料はお客様負担となります)

② coregaサポートセンター(ご購入後専用ダイヤル)に問い合わせ

電話をかける前に、巻末の「調査・修理依頼書」に書き込んで、トラブルの内容を整理してください。サポート担当者に書き込んだ内容を伝えていただくのが、スムーズな解決への近道です。

TEL 番号：045-476-6268（通話料はお客様負担となります）
受付時間：10:00～12：00、13：00～17：00(祝・祭日を除く月～金、ただし弊社指定休業日は除きます)

問い合わせ番号などが変更されることがあります。最新情報は、ホームページ（**http://www.corega.co.jp/**）でご確認ください。

「調査・修理依頼書」の記入方法

巻末の「調査・修理依頼書」は、お客様のご使用環境で発生したさまざまな障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも、製品名をご記入のうえ、以下の点について情報をお知らせください。記入用紙に書ききれない場合は、別紙を添付してください。

● ハードウェアとソフトウェアについて

- 本製品裏面に貼られたラベルに記入されているシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev) を「調査・修理依頼書」に記入してください。

（例）

- ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）を記入してください。これらは、ユーティリティーディスクのラベル上に記入されています。
- 他社のインターフェースボードやユーティリティーをご使用の場合は、すべて記入してください。
- 接続しているサーバーの機種、およびその環境も可能な限り記入してください。

● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容を出力したものなどを添付してください。
- 障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティーや、アプリケーションの処理内容も記入してください。
- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図も記入してください。

・ 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどを記入してください。

●「調査・修理依頼書」の記入例

サポートを受ける前に、巻末の「調査・修理依頼書」に記入していただくと、原因究明と解決にとても役立ちます。

「どのように記入したらいいかわからない」「どこまで詳しく書いたら…」という方は、たとえば、次のようなイメージで記入してください。

[表面]

調査・修理依頼書（corega Wireless LAN PCCL-11 1/2）

20XX 年XX月XX日

一般事項

1. 会社名（個人名）：　フリガナ：コレガ タロウ
   部署名：　ご担当者：コレガ 太郎
   ご連絡先住所：〒 XXX-XXXX
   XX県XX市 1-X-X コーポX号室
   TEL：（ XX ） XXXX - XXXX　FAX：（ XX ）XXXX-XXXX
2. 購入先（パソコンショップ名など）：OOOO ショップ
   購入年月日：20XX年 XX月 XX日
   購入先担当者：　実購入先（TEL）：（　　）

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン
   製品名：corega Wireless LAN PCCL-11
   S/N J7105-T7150-00　Rev XX
   セットアップユーティリティー Ver. XX pl. XX
   3台以上ご使用の場合は、別紙にご記入ください。
2. ご使用のコンピューター機種と併用している他メーカーの拡張アダプター（ボード）

コンピューターのメーカー名／機種	XXX社 / PC-XXX
OS とバージョン	Windows XX
拡張アダプターのメーカー名／機種	YYY社 / OP-XXX

3. お使いの無線LANアクセスポイント
   メーカー名／機種　ZZZ社 / AP-XX

お問い合わせ内容

□別紙あり　☑別紙なし

1. どんなトラブルが発生しましたか？　インターネットをしていると
   たまにとぎれる

[裏面]

調査・修理依頼書（corega Wireless LAN PCCL-11 2/2）

20XX年XX月XX日

2. トラブルは、どんなときに発生しますか？
□常に発生する　□ある特定の操作を行うと発生する　☑不定期
（どんな操作をすると発生するか、記入してください）

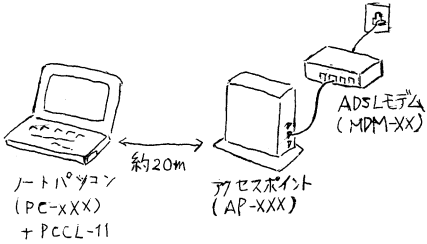
3. 画面にエラーメッセージなどは表示されましたか？　表示される場合は、その内容を記入してください

特になし

ネットワーク構成

□ AdHoc（アドホック）モードで使用
□ 802.11AdHocモードで使用
☑Infrastructure（インフラストラクチャー）モードで使用

□ 別紙あり　☑別紙なし
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします．



※2階に設置

● システムリソースレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り、システムリソースレポート（お使いのコンピューターの詳細情報をOSが自動作成するレポート）を出力の上、「調査・修理依頼書」に添付してください。Windows 98の場合、次の手順でシステムリソースレポートを出力できます。

1 **「コントロールパネル」から「システム」をダブルクリックし、「ハードウェア」タブを表示して「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする。**
2 **「印刷（N）...」ボタンをクリックする。**
3 **「印刷」ダイアログボックスの「レポートの種類」で「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択する。**

以降は、画面のメッセージにしたがって操作ください。

corega Net-News を購読しませんか?

corega Net-Newsは、コレガがお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。

メール配信サービスは、どなたにもご登録いただけます。メール配信サービスをご希望のお客様は、コレガのホームページで、［サービス情報］-［メール配信サービス］をクリックし、ご登録ください。

4-2 トラブル解決 Q&A

本製品用ソフトウェアのインストールができない

メモ　・ソフトウェアのインストール方法は、P.20 で紹介しています。
・最新のソフトウェアは、コレガのホームページで提供しています。

次のことを確認してください。

- **本製品に対応の機種、OS をお使いですか?**
「1-2 対応コンピューター機種」(P.10)、「1-3 対応オペレーティングシステム」(P.10)をご覧になり、確認してください。

- **インストール権限のあるユーザーですか?**
Windows 2000 や Windows XP では、「Administrator」や「コンピューターの管理者」権限を持つユーザーでないと、ソフトウェアのインストールやネットワークの設定ができないことがあります。

- **「マイコンピュータ」にCD-ROMドライブが表示されていて、使える状態になっていますか?**

- **本製品をコンピューターに取り付けた状態でインストールしていませんか?**
本製品は、ソフトウェアのインストール後に取り付けてください。

デバイスマネージャーで「×」が付く

デバイスマネージャーの「corega Wireless LAN PCCL-11」アイコンに「×」マークが付いているときは、本製品が「使用不可」または「無効」に設定されています。次の手順で、本製品を使用できるように設定してください。

● Windows Me/98/XP/95 の場合

1 「corega Wireless LAN PCCL-11」をクリックして選択（反転表示）し、「プロパティ（P)」をクリックする。
「全般」タブが表示されます。

2 「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックを外し、「すべてのハードウェアプロファイルで使用する」にチェックを付ける。

3 [OK] をクリックする。

● Windows 2000 の場合

1 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックする。

2 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega Wireless LAN PCCL-11」を右クリックして「有効」を選択する。

通信ができない

・ **本製品は正しく取り付けられていますか?**
カードの取り付けを再確認してください。コンピューターの電源が入っている状態で「Power LED」が点灯していれば、正しく取り付けられています。

・ **本製品用ソフトウェアは、インストールされていますか?**
「3-2 ソフトウェアのインストール」(P.20)を参考にインストールしてください。

・ **ネットワークの設定は済んでいますか?**
「3-4 無線LANカードの設定(Windows Me/98/2000/95)」(P.30)、または「3-5 無線LANカードの設定(Windows XP)」(P.34)を参考に設定してください。

・ **通信相手の機器は、このコンピューターと通信できるタイプですか?**
無線LANにはいくつかの方式があり、同じ方式を使う機器でないと通信できません。通信できる機器は、「2-2 通信相手の機器は何が使える?」(P.14)で紹介しています。

・ **セキュリティーの設定を確認してください**
「3-6 セキュリティーの設定」(P.36)を参考にして、セキュリティーの設定を確認してください。特に、すでに無線LANが構築されている環境に機器を追加するときなどは注意が必要です。アクセスポイント側で「WEP暗号化」を設定している場合は、本製品を取り付けたコンピューター側にも同じ暗号を設定してください。

・ **ESSIDとチャンネルを確認してください**
本製品と同じESSIDおよびチャンネル設定になっているアクセスポイントが近くに複数存在する場合は、アクセスポイントを検出できなくなったり、通信ができなくなったりします。どちらかのアクセスポイントのESSIDおよびチャンネル設定を変更してください。

通信速度が遅い

メモ 通信速度や通信距離を確保するための情報を「D ユーティリティーの設定項目について」(P.55)で紹介しています。あわせてご覧ください。

・ 通信相手側機器との距離を確認してください。
通信相手側機器との距離によって、通信速度が大きく変わることがあります。

・ 電子レンジを使用していませんか?
電子レンジで使用される電磁波は、無線LANで使用される周波数に近いので、無線LANに影響を与えることがあります。

・ 複数台のコンピューターで、無線 LAN を使っていませんか?
無線LANで接続されているコンピューターが多くなると、それぞれの通信速度が遅くなります。

「マイネットワーク」に他のコンピューターが表示されない

「マイネットワーク」の「ローカルネットワーク」に他のコンピューターが表示されない場合は、現在設定中のコンピューターが属している「ワークグループ」または「ドメイン」と一致していない可能性があります。

● Windows 95/98/Me の場合

1 デスクトップにある「ネットワークコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ(R)」をクリックする。

2「識別情報」タブをクリックする。
「識別情報」タブの画面が表示されます。ここで、表示したいコンピューターと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows 2000 の場合

1 デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックする。

2「ネットワーク ID」タブをクリックして、「プロパティ(R)」をクリックする。
「識別の変更」ウィンドウが表示されます。ここで、表示したいコンピューターと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows XP の場合

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックする。

2 画面左の「システムのタスク」にある「システム情報を表示する」をクリックする。

「システムのプロパティ」が表示されます。

3 「コンピュータ名」タブをクリックして、「変更（C）」をクリックする。

4 「コンピュータ名の変更」から、表示したいコンピューターと同一の「ワークグループ」または「ドメイン」を設定する。

PCMCIA コントローラが正しく表示されない

PCMCIA コントローラが正しくインストールされていないと、本製品のドライバーは動作しません。このページの手順で、PCMCIA コントローラを再インストールしてください。

メモ ご使用のコンピューターのPCMCIA コントローラ専用ドライバーは、フロッピーディスクなどで提供されていることがあります。

次に説明する手順を実行する前に、必ずお手元のコンピューターの取扱説明書を確認し、その取扱説明書に記載されている手順でPCMCIA コントローラを再インストールしてください。

また、専用のドライバーが提供されていない場合は、どのようなドライバーがインストールされているかを記録した後、以下の手順を参考にして再インストールしてください（お使いの機器などにより手順が異なる場合もあります）。

どのようなドライバーがインストールされているかを記録するには、Windowsのシステムレポート出力機能を利用すると便利です。

レポートの出力方法は、「●システムリソースレポート添付のお願い」(P.47)をご覧ください。

1 「●「デバイスマネージャ」で確認する」（P.27）の手順1 から手順3を行う。

「デバイスマネージャ」が表示されます。

2 「PCMCIA ソケット」の下にある「PCMCIA コントローラ」を選択し、「削除」をクリックする。

「デバイス削除の確認」が表示されます。

3 ［OK］をクリックする。

「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」アイコンが削除されます。

4 Windowsを終了し、コンピューターの電源をオフにし、本製品をPCカードスロットから取り外してください。

5 もう一度コンピューターの電源をオンにする。

「コントロールパネル」が表示されます。

6「PCカード(PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認する。

メモ プラグアンドプレイ機能により、ドライバーが自動的に読み込まれることもあります。

7「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする。

「ハードウェアの追加」ウィザードが起動します。

8「次へ」をクリックする。

メモ ハードウェアウィザードの実行には数分間かかります。

9「はい(通常はこちらを選んでください)」を選択し、続く2つの質問に対し、それぞれ「次へ」をクリックして進み、最後に「完了」をクリックする。

「ハードウェアウィザード」が終了し、続いて自動的に「PCカード(PCMCIA)ウィザード」が起動します。

10 表示されるメッセージにしたがって操作する。

最新のドライバーやファームウェアを入手したい

改良などのために予告なく、本製品のドライバーやファームウェアのバージョンアップ、パッチレベルアップを行うことがあります。

最新の情報は、コレガのホームページから入手することができます。

1 コレガのホームページ(http://www.corega.co.jp/)にアクセスする。

2「サポート」をクリックする。

3 最新の情報はここで公開されているので、ダウンロードする。

付録

A 製品仕様

無線部	
規格	
国際規格	IEEE 802.11、IEEE 802.11b
国内規格	RCR STD-33、ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4 ～ 2.497GHz
変復調方式	直線拡散型スペクトラム拡散方式（DS-SS 方式）
情報変調方式	CCK、QPSK、BPSK
アクセス制御方式	CSMA/CA
データ転送速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
サービスエリア	屋外 150m、屋内 50m （11Mbps 通信時は、 屋外 60m、屋内 30m）
スクランブル処理	WEP(64/128bit)、ESSID
空中線電力	3mW/MHz
アンテナダイバーシティー	空間ダイバーシティー
電源部	
動作電圧	DC +5V ± 0.5V
最大消費電力	0.15W
最大消費電流	送信時 290mA 受信時 288mA
環境条件	
保管時温度	- 20 ～ 60 ℃
保管時湿度	95% 以下（ただし、結露なきこと）
動作時温度	0 ～ 40℃
動作時湿度	80% 以下（ただし、結露なきこと）
外形寸法	
	115(W) × 54(D) × 7.5(H)mm PCCard TYPE II Extended
重量	
	約 40.7g
取得承認	
	EMI 規格 VCCI クラス B、技術基準適合認定

B 工場出荷時の設定

本製品は工場出荷時に以下の設定となっています。

通信モード	Infrastructure
ESSID	corega
チャンネル	6
転送速度	Fully Automatic

C MAC アドレスについて

Ethernetに接続される機器は、MAC（マック）アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信が行われます。
MACアドレスは機器(アダプター)のひとつひとつに割り当てられた唯一無二のアドレスであり、下記の6バイト(48ビット)によって構成されています。このアドレスは本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。
本製品のMACアドレスは、製品に貼付されているMACアドレスラベルに記入されています(表記はすべて16進数)。

00　09　41　　xx　xx　xx
ベンダーID　　通し番号

- ベンダーID
  LANベンダー(LAN用機器を製造しているメーカー)がIEEE（米国電気電子学会）に申請することにより得られる識別番号です。
- 通し番号
  この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたものです。
  この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。

メモ MACアドレスは、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。
また、MACアドレスは、TCP/IPの環境で使用されるIPアドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

D ユーティリティーの設定項目について

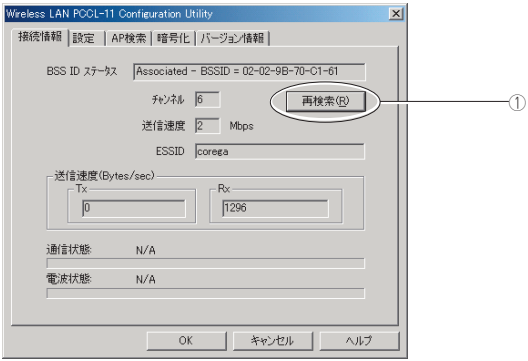
ここでは、「Wireless LAN PCCL-11 Configuration Utility」（以下、ユーティリティー）で設定する項目について説明します。ユーティリティーは、デスクトップ右下のタスクトレイ（通知領域）にある無線アイコン（ ）をダブルクリックすると、起動できます。

設定を変更した後、［OK］をクリックすると、設定内容が本製品に反映されます。

メモ Windows XP をお使いの場合は、「設定」タブと「暗号化」タブの画面は表示されません。

●「接続情報」タブ

現状の無線 LAN 通信の状態が表示されます。



メモ
- ユーティリティーをはじめて起動したときは、「接続情報」タブが表示されます。
- アドホックモード（Ad-Hoc）時は、「通信状態」および「電波状態」は表示されません。

①［再検索(R)］

クリックすると、アクセスポイントの検索が開始されます。

通信状態が不安定なときには、アクセスポイントに接続し直せます。

また、近くにアクセスポイントが複数台あるときには、より電波の強いアクセスポイントに接続し直せます。

メモ 接続できるアクセスポイントが近くにない場合は、実行できません。

●「設定」タブ

基本的な設定を行うための設定内容が表示されます。

① プロフィール

設定名が表示されます。通常は変更する必要はありません。

メモ　工場出荷時には、「Default」に設定されています。

・[削除(R)]

クリックすると、保存した設定を削除できます。

・[作成(C)]

クリックすると、設定した内容に名前を付けて保存できます。

・[適用(A)]

クリックすると、プルダウンリストボックスから選択した設定名に設定内容を反映できます。

② 通信モード(M)

無線LANのネットワーク構成に合わせた通信モードを設定します。次の3種類の通信モードがあります。

Infrastructure	アクセスポイントを使用して無線LANに接続するときは、これを選びます。
802.11 Ad-Hoc	同じESSIDを設定した無線LAN機器同士で通信するときは、これを選びます。
Ad-Hoc	同じチャンネルを設定した無線LAN機器同士で通信するときは、これを選びます。

メモ　工場出荷時には、「Infrastructure」に設定されています。

③ ESSID(S)

接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力します。

メモ
- ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。
  ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ￣
- ESSIDは、無線LANにつながっているコンピューターを認識するための名称です。
- アドホックモード(Ad-Hoc)時は、ESSIDが無効となります。
- 工場出荷時のESSIDは、「corega」に設定されています。お使いの環境にあわせて変更することをおすすめします。

④ 転送速度(T)

無線LANで使用する送信速度を選択できます。

通常は、変更する必要はありません。

メモ 工場出荷時の転送速度は、「Fully Automatic」に設定されています。

⑤ チャンネル(N)

通信モードに「Ad-Hoc」を選択した場合は、チャンネルを変更できます。

相手の無線LAN機器と同じチャンネルを「1」～「14」から選びます。

メモ
- 通信モードに「Infrastructure」または、「802.11 Ad-Hoc」を選択した場合は、チャンネルの変更はできません。
- 工場出荷時のチャンネルは、「6」に設定されています。
- チャンネルによって、通信に使用する電波の周波数が異なります。

⑥ 省電力(P)

「Enabled」を選択すると、本製品を省電力モードで使用できます。

省電力モードでは、通信が行われないときに自動的に本製品への電力供給が抑えられるため、バッテリーで動作するコンピューターでは、稼働時間が長くなります。

注意! 省電力モードに設定した場合、環境によっては通常より通信状況が悪くなることがあります。
このような場合には、省電力モードを無効にしてください。

メモ 工場出荷時には、「Disabled」に設定されており、省電力モードにはなっていません。

⑦ [初期値に戻す(D)]

クリックすると、すべての設定内容が初期値に戻ります。

⑧ [変更前に戻す(U)]

クリックすると、最後に[設定変更する(Z)]をクリックした時点の設定内容に戻ります。[設定変更する(Z)]をクリックする以前の内容には、戻せません。

⑨ [設定変更する(Z)]

クリックすると、プロフィール欄に表示されている設定名に変更内容が反映されます。

●「AP 検索」タブ

アクセスポイントの一覧が表示されます。

メモ 近くにアクセスポイントが複数台ある場合に使用してください。

① 接続できるアクセスポイントがここに表示されます。

メモ 主に次のような条件を満たす接続相手がリストアップされます。

- 「802.11 Ad-Hoc」に設定されている無線LAN端末
- 「BSSID」が有効になっているアクセスポイント

②［検索(S)］

クリックすると、接続できるアクセスポイントが①欄に表示されます。

メモ
- 通常、アクセスポイントの検索は、自動的に行われます。
- アクセスポイント側にWEPによる暗号化が設定されている場合は、同じ暗号を設定する必要があります。暗号の設定は、「暗号化」タブ（P.59）で行います。

③［接続(C)］

①欄から接続したいアクセスポイントを選択した後、クリックすると目的のアクセスポイントに接続できます。

●「暗号化」タブ

通信するデータを保護するための、暗号化に関する設定内容が表示されます。

メモ 暗号を使用して通信を行う場合は、相手の無線LAN機器にも同じ暗号が設定されている必要があります。

① 暗号(E)

暗号を使用するかどうかを選択します。

暗号を使用する場合は、「64Bit」と「128Bit」の2種類から暗号長を選択できます。「Disable」を設定した場合は、暗号化されません。

メモ 工場出荷時には、「Disable」に設定されています。

② キーワード入力(K)

キー文字列から暗号キーを生成する場合は、ここを◉（オン）にします。

・キー文字列

「キーワード入力(K)」を◉（オン）にしている場合にだけ入力できます。

相手の無線LAN機器と同じ文字列を入力します。

メモ 工場出荷時には、設定されていません。

③ 直接入力(I)

暗号キーを直接入力する場合は、ここを◉（オン）にします。

・ASCII

「ASCII」を選択した場合は、入力した文字列から暗号キーが生成されます。

④ Key1～Key4

「直接入力(I)」を(オン）にしている場合に設定できます。

暗号キーを直接入力してください。

メモ 工場出荷時には、設定されていません。

⑤ デフォルトキー

Key1～Key4のうち、実際に使用する暗号キーを選択します。

メモ 工場出荷時は「1」に設定されています。

⑥［初期設定に戻す(D)］

クリックすると、すべての設定内容が初期値に戻ります。

⑦［変更前に戻す(U)］

クリックすると、最後に[設定変更する(Z)]をクリックした時点の設定内容に戻ります。[設定変更する(Z)]をクリックする以前の内容には、戻せません。

注意! 確認メッセージは表示されません。

⑧［設定変更する(Z)］

クリックすると、設定内容が保存され本製品の動作に反映されます。

注意! 確認メッセージは表示されません。

●「バージョン情報」タブ

本製品およびドライバー、ユーティリティーの情報が表示されます。

① ここをクリックすると、WEBブラウザーが起動し、コレガのホームページが表示されます。

メモ　無線LANで接続した先のネットワークが、インターネットに接続されていない場合、コレガのホームページは表示されません。

E 用語集

● AdHoc（アドホック）/802.11 AdHoc
「AdHoc」および「802.11 AdHoc」モードは、本製品および無線LAN アダプターを取り付けたコンピューター同士でネットワークを構成する場合に使用し、次の通信が可能です。
- AdHoc モード
  同じ無線チャンネルを設定した無線LANアダプター同士の通信
- 802.11 AdHoc モード
  同じESSID を設定した無線LANアダプター同士の通信

その際、コンピューター同士はピアツーピアで接続され、お互いのリソースを共有できます。

● Infrastructure（インフラストラクチャー）
「Infrastructure」モードは、無線LAN ネットワーク構成の 1 つで、アクセスポイントを使用し、有線ネットワークと無線ネットワークを統合して 1 つのネットワークとして構成する場合に使用します。

● Microsoft ネットワーククライアント
Windows 98/95 などでサーバーサービスを利用するためのクライアントソフトウェアです。
通常、プロトコルには「NetBEUI」が一般に選択されます。

● NetBEUI（ネットビューイ）プロトコル
小中規模のネットワークトランスポートプロトコルです。
NetBEUI は、OSI 参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。
これをNetBIOS と統合することにより、ワークグループLAN 環境で効率的な通信システムが実現できます。
Windows 98/95 でサポートされています。

● ESSID
「ESSID」(Extended Service Set IDentifier)は、無線LAN ネットワークを構成するコンピューター同士を識別する名前です。
同じネットワークに属するコンピューターまたはアクセスポイントは、同じESSID を設定しなければなりません。
「ESSID」は、半角英数文字 32 文字以内(大文字、小文字も区別される)で設定します。

(「ESSID」の設定は、「Infrastructure」モードと「802.11 Ad-Hoc」モードのときに有効です)。

- BSSID(Basic Service Set IDentifier)は、無線LANネットワークを構成するコンピューター同士を識別する文字列で、無線LAN機器のMACアドレスが使用されます。
- TCP/IP プロトコル

  インターネットで使用されているプロトコルで、OSI 参照モデルのトランスポート層、およびネットワーク層プロトコルに相当します。

  TCP/IP プロトコルを使用すると、異なるプラットフォームのコンピューター同士でも通信できます。
- アクセスポイント

  無線LANと有線LAN のネットワーク上のコンピューターが通信するための装置です。
- 転送速度

  無線LANを構成するコンピューターが対応している速度から、転送速度を選択できます。

  帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、「Fully Automatic (送信速度自動設定)」に設定しておきます。

  「Fully Automatic」に設定すると、送信速度はネットワークを構成するコンピューターに合わせて自動的に調整され、最適な速度で通信できるようになります。
- チャンネル

  無線LAN 通信で使用する、IEEE802.11 のデフォルトのチャンネルを設定します。
- ピアツーピア接続

  コンピューター同士が、1 対 1 で対等に行う通信です。

  サーバーとクライアントのように機能を分化せず、お互いの機能を利用して通信を行い、ファイルやプリンターなどの資源を共有することができます。
- 無線LAN

  配線を必要としないLAN(Local Area Network)のことです。

  1 つの建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で、電波などを使用してネットワークを構築します。

F 保証と修理について

保証について

巻末の「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は保証の対象外となりますので、あらかじめご了承ください。本製品（ドライバーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書および各PDFを参照し、設定や接続が正しく行われているかをご確認ください。

現象が改善されない場合は、巻末の「調査・修理依頼書」のコピーに必要事項をご記入の上、保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシート等可）を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品を送付してください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- **弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。なお、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。**
- **製品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象になりませんので、ご注意ください。**
- **宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。普通郵便による送付は、固くお断りいたします。**
- **修理期間は、製品到着後、約10日程度（弊社営業日数）を予定しております。**

■ 製品送付先

〒222-0033　横浜市港北区新横浜1-19-20
（株）コレガ　coregaサポートセンター宛

G おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。
  弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
  ©2002 株式会社コレガ

coregaは、株式会社コレガの登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
その他、この文書に記載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。
2002年6月　　Rev.A　初版

メ　モ

調査・修理依頼書（corega Wireless LAN PCCL-11 1/2）

年　月　日

一般事項

1. 会社名（個人名）：　　フリガナ：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒

   TEL :(　　)　　FAX :(　　)
2. 購入先（パソコンショップ名など）：
   購入年月日：　年　月　日
   購入先担当者：　　実購入先（TEL）:(　　)

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン
   製品名：corega Wireless LAN PCCL-11
   S/N _____ Rev _____
   セットアップユーティリティー　Ver._____　pl._____
   3台以上ご使用の場合は、別紙にご記入ください。
2. ご使用のコンピューター機種と併用している他メーカーの拡張アダプター（ボード）

コンピューターのメーカー名／機種	
OS とバージョン	
拡張アダプターのメーカー名／機種	

3. お使いの無線LANアクセスポイント
   メーカー名／機種

お問い合わせ内容

□別紙あり　　□別紙なし

1. どんなトラブルが発生しましたか？

調査・修理依頼書（corega Wireless LAN PCCL-11 2/2）

年　月　日

2. トラブルは、どんなときに発生しますか？
□常に発生する　□ある特定の操作を行うと発生する　□不定期
（どんな操作をすると発生するか、記入してください）

3. 画面にエラーメッセージなどは表示されましたか？　表示される場合は、その内容を記入してください

ネットワーク構成

□ AdHoc（アドホック）モードで使用
□ 802.11 AdHoc モードで使用
□ Infrastructure（インフラストラクチャー）モードで使用

□ 別紙あり　□別紙なし
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします.

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取扱説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

・PCカード本体：製品保証書に記載の“保証期間”で無償保証とします。
（ただし、本規定の他の条項に準じます。）

・本体付属品（ドライバーディスク）：3ヵ月間保証

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます（詳しくは、取扱説明書の「F 保証と修理について」をご覧ください）。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、静電気、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■本製品添付のドライバーソフトウェアが他社の提供するハードウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は、行いません。

■本ハードウェアが他社の提供するソフトウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は行いません。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名　corega Wireless LAN PCCL-11

シリアル番号
（ S/N ）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先
coregaサポートセンター
TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294
〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20
受け付け時間： 10:00 ～12:00／ 13:00 ～17:00
月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印が無い場合は、有償扱いとなりますのであらかじめご了承ください。

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。